

研究・調査報告書

報告書番号	担当
137	滋賀医科大学社会医学講座福祉保健医学部門
題名 (原題/訳)	
Alcohol consumption and self-reported sunburn: a cross-sectional, population-based survey. 飲酒量と自己報告の日焼けの関連、断面的、一般住民対象研究	
執筆者	
Mukamal KJ.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
J Am Acad Dermatol. 2006 Oct;55(4):584-9.	
キーワード	
アルコール、メラノーマ、日焼け	
要旨	
<p>背景： 多量飲酒はメラノーマ、基底細胞がんを含むいくつかのがんと関連していることが知られている。</p> <p>目的： 皮膚がんの危険因子である日焼けと過量飲酒の関連について調査した。</p> <p>方法： 299658人の成人を対象に電話調査を行った2004年のBehavioral Risk Factor Surveillance System (行動学的危険因子追跡システム)の一部を使って分析した。先行する一ヶ月の飲酒状況及び過去1年間の日焼け状況を解析に用いた。</p> <p>結果： 約33.5%の対象者が過去一年間の日焼けを報告した。飲酒量が多いほど、また多量飲酒者であること(1機会に5 drink (約2.5合以上)飲むこと)は日焼けの有病率、日焼けの回数と正に関連していた。日焼けの有病率及び日焼けの回数の調整済みオッズ比は、多量飲酒者であることでそれ以外のものに対して、それぞれ1.39 (95%信頼区間 1.31-1.48)、1.29 (95%信頼区間 1.20-1.38)であった。この関連は飲酒量を用いた分析または種々のサブグループ分析でもほぼ同等であった。</p> <p>研究の限界： 断面研究であること、自己申告の回答を用いていることが本研究の限界点である。</p> <p>結論： アメリカの成人において過量飲酒は日焼けと関連していた。これは過量飲酒にまつわる一つ健康危険行動の一例であると考えられる。またこの関連は飲酒が皮膚がんとの関連を説明する一つの要因であることを示唆するものである。</p>	